

式

三年

画数 6
筆順 一 ㄟ 式 式
オン シキ
クシ

成り立ち



二本の木のえだをむすび合わせ、地めんにつき立てた「目じるし」の形をあらわした「式」と、工作のいみの「エ」とを組み合わせて作った字で、「工作の目じるしとなるもの」↓「型(かた)」をあらわした字です。

今では、工作にかぎらず、ものごとをするばあいには、「よりどころとするもの(お手本)」のことを「式」といいます。○図形式、方式、書式。

また、「式」に従って行われる「もよおし」のことを「式」といいます。○入学式、始業式、成人式。

「式」は「式(くじ)」の本字である。式は目じるしに打たれたので、「目じるし」の意味になり、そのため、「木」を加えて新しく作ったものである。

使い方

▽今年(ことし)は、ぼくの家では、いくつも式が重なりました。弟(あに)は小学校の入学式(にゅうがくしき)に出ました。ぼくのおじさんは入社式(にゅうしやしき)に出たのだそうです。ぼくは始業式(しぎやうしき)にできました。▽始業式(しぎやうしき)の時、大きな白い紙に、「式次第(しきしだい)」と書いてありました。何(なに)のことかと思って、あとでおかあさんに聞いたら、「式の順番(しぎばん)のことよ」と教えてくれました。

熟語例

▽入学式(にゅうがくしき) (学校へ入る儀式のことです。みなさんは、一年生の時、入学式に出ましたね。中学校へ入る時、また、入学式に出ますよ。)

▽始業式(しぎやうしき) (「学業(がくぎやう)が、また始まる時に行う式」といういみです。各学年度(がくがくねんど)のはじめに行います。)

▽成人式(にゅうじんしき) (「成人(せいじん)」になった時に行う儀式のことです。日本では二十歳(にじゅうさい)になった時、行います。)

▽書式(しよしき) (書く時のやり方。「書式(しよしき)にのっとって書く」といえば、「書き方(かきかた)のお手本通り(おてほんどおり)に書く」といういみになります。)

使い方

▽うちのオレンジ畑(はたけ)では、オレンジの実(み)がたくさん実(み)つています。

▽実(み)を言うと、ぼくの家の猫(ねこ)はともわがままです。キヤットフード(キヤットフード)など食べないで、ハムとかチーズばかりねだります。

熟語例

▽充実(じゆんじつ) (中み(なかつみ)が満ち(みち)っていて豊かなこと。「今年の夏休み(なつやすみ)は充実(じゆんじつ)した生活(せいかつ)ができた」などというふうに、つかいます。)

▽結実(けつじつ) (木(き)などが実(み)を結ぶ(むす)ぶこと。また、そこから、結果(けつか)として、できあがること。「日頃(ひごろ)の成果(せいか)が結実(けつじつ)した」などというふうに、つかいます。)

▽誠実(せいじつ) (まじめで、実(み)があること。誠意(せいぎ)があること。「あの人は誠実(せいじつ)な人(ひと)だから、約束(やくそく)は守る(まも)るにちがいない」などというふうに、つかいます。)

▽事実(じじつ) (本当(ほんとう)に起こったこと。「あの人の言った(い)ったことは事実(じじつ)だ」などというふうに、つかいます。)

▽実態(じじたい) (本当(ほんとう)の状態(じょうたい)。「実態(じじたい)を調べて(しらべて)みたら、意外(いがい)なこと(こと)がわかった」などというふうに、つかいます。)

実

三年

画数 8
筆順 ㄥ 宀 宀 宀 宀 宀 宀 宀 宀
オン ジツ
クシ ミ・みの 日ル

成り立ち



「家」の形をあらわし、家のいみをあらわした「宀」と「大(だい)いの人(ひと)(衆(しゆ)年(ねん)日(じつ))」のいみをあらわした「夫(ふ)」(三(さん)と人(ひと)で衆(しゆ)のいみ)とを組み合わせた字です。

「家のなかに大(だい)いの人(ひと)がいる」ということで、「中(なかつみ)がいっぱい」であることをあらわした字です。

「中(なかつみ)」といういみから、くだものなどの「み」のいみにつかわれ、さらに、「実(み)がなる(なる)の(の)」といういみにつかわれるようになりました。

「本字は「實」で、「家の中に財貨(ざいごう)が充ち満ちていることを表した」字であり、「宀」と「實」との合意字であるが、今の字体では、この解釈は通じない。「実を三人(さん)と衆」と考えることにした。」